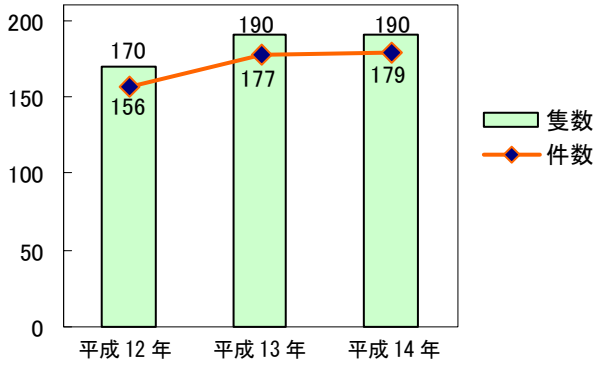
理事官の認知状況

外国船海難の発生状況　外国船関連事件は増加傾向

平成12年から14年までの3年間に発生した外国船が関連する海難（理事官が認知した海難）は、海難発生全体のほぼ3%を占めており、総数が漸減傾向を示すなか、毎年150～180件程度発生し、増加の傾向となっています。

外国船関連海難発生状況の推移

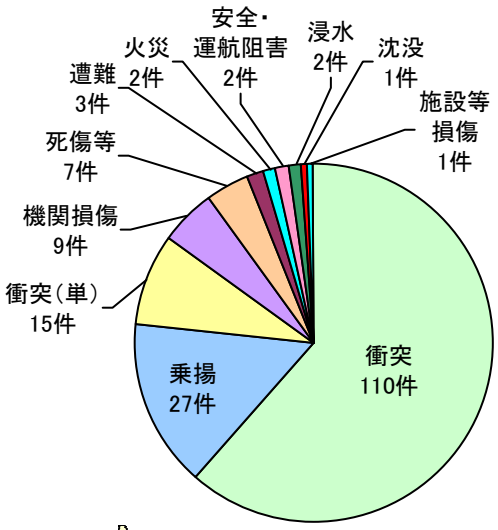


平成14年 船種・事件種類別の状況　貨物船の衝突が圧倒的に多い

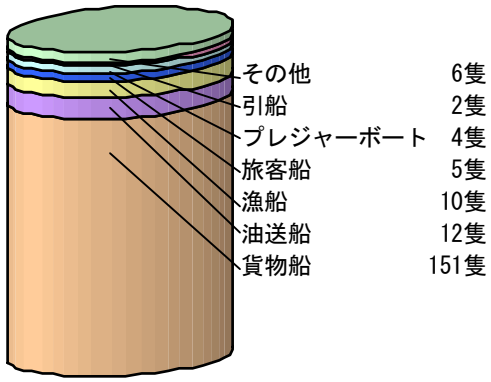
平成14年に発生した外国船関連事件179件を事件種類別にみると、船舶間の衝突が6割を占めています。

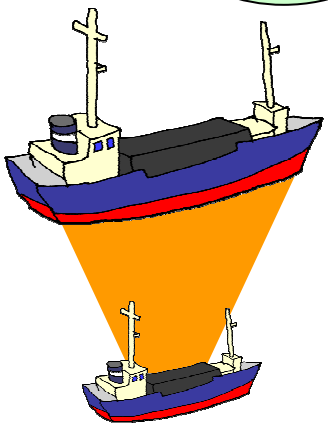
また、海難にかかわった外国船190隻を船種別にみると、貨物船が8割と圧倒的に多く、更にトン数（「総トン数」以下同じ。）別にみると、10,000トン以上の大型船舶が4分の1を占めています。

事件種類別発生状況

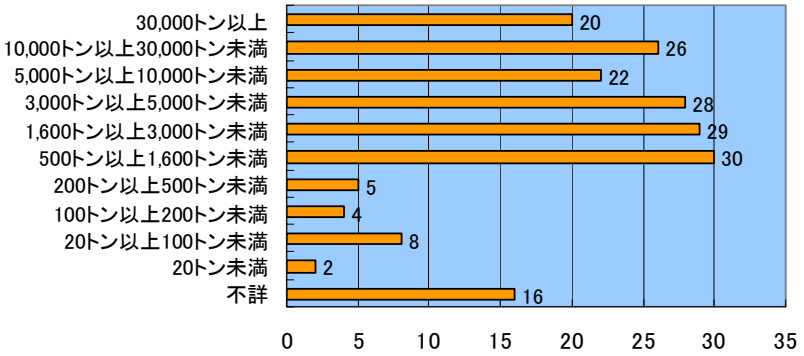


船種別発生状況





トン数別の状況



死傷者等の発生と衝突の相手船の状況

死傷者は前年よりも増加、衝突の相手船は漁船が 4 割強

平成 14 年における 179 件の海難によって、23 人が死亡・行方不明、49 人が負傷しています。なお、前年と比較すると死亡・行方不明が 8 人、負傷者が 4 人の増加となっています。死傷者等 72 人のうち、外国船側の発生は 46 人で、衝突の相手船となった日本船側に 26 人の死傷者等が発生しています。

また、衝突事件 110 件をみると、日本船と衝突したものが 100 件、外国船同士が衝突したものが 10 件で、衝突の相手船となった日本船は、漁船が 44 隻と 4 割強を占めています。

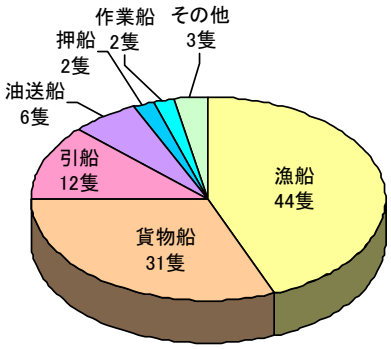
死傷者等の発生状況

（単位：人）

乗組員			合計
死亡	行方不明	負傷	
11(4)	12(5)	49(17)	72

※括弧内は日本船側の死傷者等を再掲

衝突の相手船の状況［日本船］



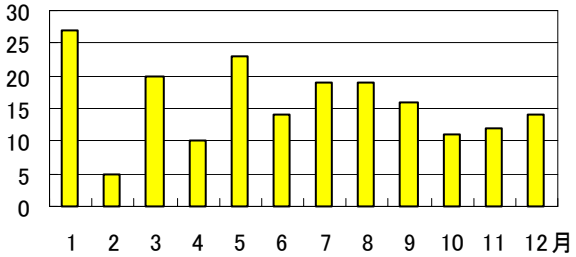
発生月・時刻別の状況

春から夏　午前中に多く発生

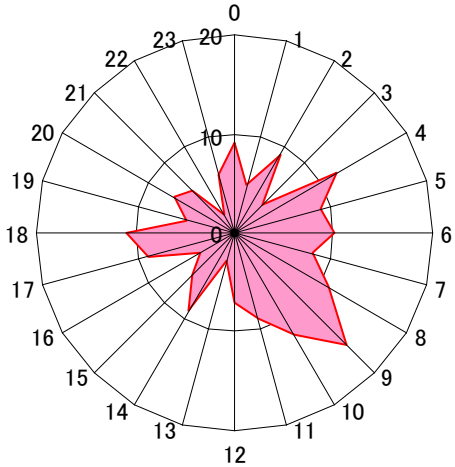
発生月別にみると、各月に分布していますが、春から夏にかけての海難が多くなっています。

また、発生時刻別では、早朝からの午前中に多く発生しています。

発生月別の状況



発生時刻別の状況



発生海域の状況

北海道北岸及び西岸	2
本州東岸北部	2
本州東岸南部	3
東京湾	17
本州南岸中部	18
伊勢湾	9
本州北西岸西部	2
本州北西岸中部	7
本州北西岸北部	5
瀬戸内海	39
大阪湾	11
関門港	13
四国南岸	4
九州東岸及び南岸	4
九州北岸及び西岸	14
南西諸島	9
合計	159

日本の領海内で発生した 159 件の発生地点分布は、左表のようになっています。159 件中瀬戸内海（関門港・大阪湾を除く）で 39 件が、東京湾において 17 件が発生しています。また、港では関門港（含関門海峡）において 13 件が、沿岸においては本州南岸中部の野島埼から新宮川口の間で 15 件が発生しています。

外国船の海難調査の困難性

海難発生後、短期間で我が国から出航することが多く、また、一度出航するといつ我が国に寄港するかわからないため、関係者の面接調査、船体検査、証拠収集のための時間が限られています。

短期間に調査を完了させるためには、代理店や弁護士又は関係行政機関などとの迅速な調整が必要となります。